

札幌医科大学附属病院 遠隔ICU支援センター

遠隔集中治療の概要

北海道のどこにいても、質の高い集中治療を

● 遠隔集中治療とは

遠隔集中治療とは、ビデオ音声通話などによって集中治療に精通した医療従事者が協力して重症患者対応する診療支援システムである。



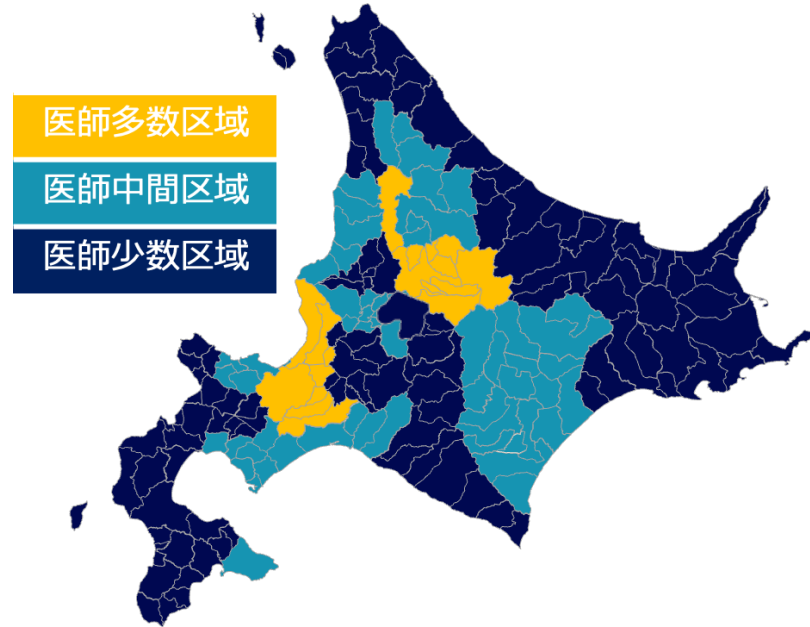
● なぜ北海道に遠隔集中治療が必要か

遠隔ICUは地方病院の代替ではなく、地域の医療者と専門チームが重症患者管理を共同で支える仕組み。



1 広い医療圏と長い搬送距離

冬季・夜間の搬送リスクが大きい



2 集中治療専門人材の地域偏在

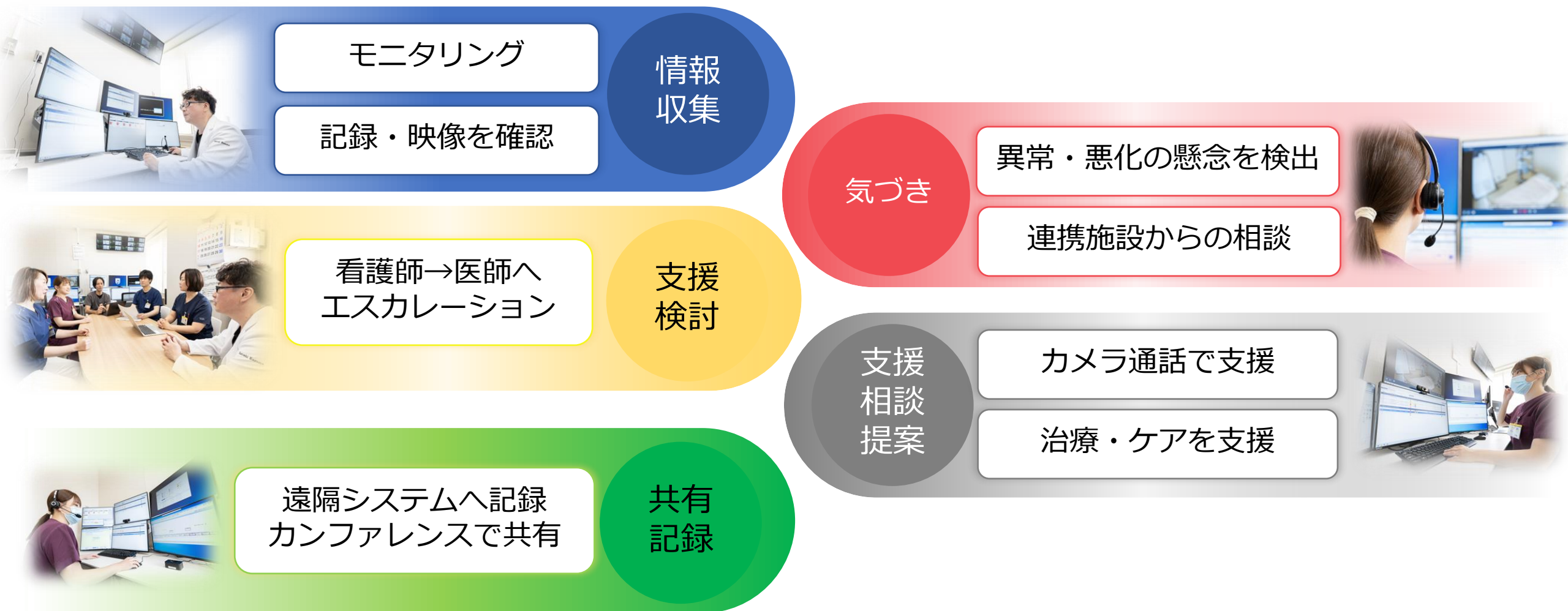
集中治療医の約80%が札幌市に一極化
HCUで重症患者を診る地域もある



3 重症患者を“地域で支える”体制が必要になっている

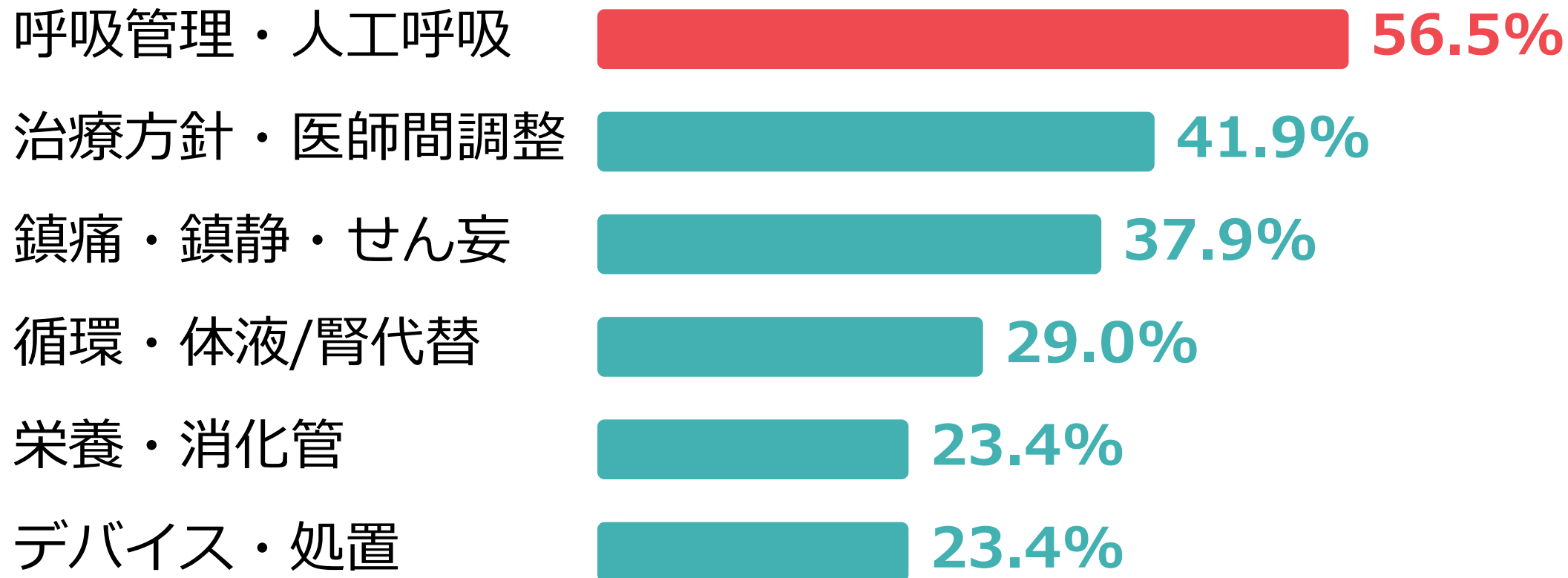
誰もが安心して地域で医療を受けられる体制の強化

● 支援の流れ



支援センターの常時モニタリングと、ベッドサイドのケア実践をひとつの流れでつなぐ。

● 遠隔集中治療で多い相談・介入



遠隔治療開始初期の支援記録より（複数該当）

支援の中心は呼吸管理。

鎮静・循環・治療方針と重なり、複合的な判断が求められる。

● 遠隔集中治療が生み出すメリット

患者

悪化兆候の早期発見
安全な重症患者管理

地域医療

地域完結性の向上
搬送などの負担軽減

距離を超える
集中治療連携

現場スタッフ

夜間・繁忙時の相談
臨床判断の不安軽減

教育・研究

集中治療の標準化促進
医療データの蓄積
次世代人材の育成

● 今後の展望

北海道全域のICUを連携し、
北海道における遠隔ICUが
本邦のモデルケースとなるよう
プログラムを推進



— All One —

HOKKAIDO
ICU Network